

NO	図書分類	タイトル	著者	コメント
1	913	劇場	又吉 直樹	一番会いたい人に会いに行く。こんな当たり前のことが、なんでできへんかったんやろな。かけがえのない大切な誰かを想う、切なくも胸にせまる恋愛小説。
2	30	儒教に支配された中国人と韓国人	ケント・ギルバート	序章 「儒教の呪い」とは何か； 第1章 沖縄も東南アジアも樺太も中国領？； 第2章 キリストも孔子も韓国人？； 第3章 中国・韓国の自己中心主義の裏側； 第4章 日本は儒教国家ではない！； 第5章 儒教の陰謀は現在進行中！
3	36	魂でもいいから、そばにいて 3.11後の霊体験を聞く	奥野 修司	今まで語れなかった。でも、どうしても伝えたい。喪った最愛の人との不思議でかけがえのない“再会の告白”。大宅賞作家が紡いだ、“奇跡と再生”の記録。
4	913	夜の谷を行く	桐野 夏生	39年前、西田啓子はリンチ殺人の舞台となった連合赤軍の山岳ベースから脱走した。5年余の服役を経て、いまは一人で静かに過ごしている。だが2011年、元連合赤軍最高幹部・永田洋子の死の知らせとともに、忘れてしまいたい過去が迫ってくる…。
5	913	月の満ち欠け	佐藤 正午	この娘が、いまは亡き我が子？いまは亡き妻？いまは亡き恋人？そうでないなら、はたしてこの子は何者なのか。欠けていた月が満ちるとき、喪われた愛が甦る。3人の男と1人の少女の人生が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく数奇なる愛の軌跡。
6	913	天子蒙塵 第二巻	浅田 次郎	張作霖爆殺事件から3年、息子・張学良は無抵抗将軍となり、清朝最後の皇帝・溥儀は玉座を追われ、満洲の野に放たれた猛獣と化した関東軍に1人反抗を続ける男・馬占山。馬は同じ張作霖側近であった張景恵の説得を受け一度は日本に従うが…。
7	913	軍師 官兵衛 四	前川 洋一	NHK大河ドラマで放映されたもの 第39章～第49章、最終章
8	911	ことばのしっぽ	読売新聞生活部	「こどもの詩」 50周年精選集